

公共交通と駅を中心としたまちづくり

TOKYU CORPORATION



2024年1月30日

東急グループの事業構成



社会インフラ事業



都市開発事業



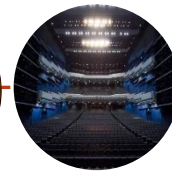
生活サービス事業



リテール事業



ホテル・リゾート事業



文化・教育事業

東急の社会インフラ事業

鉄軌道・バス

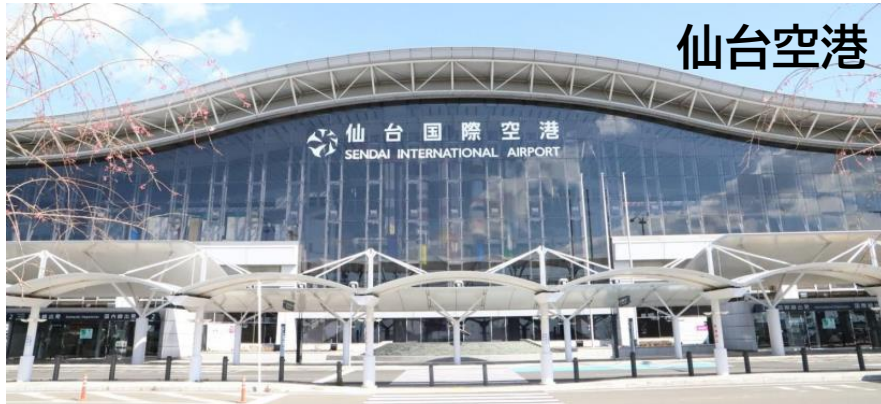


東急バス

上田電鉄

東急の社会インフラ事業

空港



仙台空港



新千歳空港

出典: 新千歳空港ターミナルビルホームページ

仙台空港

富士山静岡空港

新千歳空港

稚内空港

函館空港

釧路空港

旭川空港

帯広空港

女満別空港

広島空港

エネルギー

新しい生活体験を、エネルギーとともに。

東急パワーサプライは、生活者の視点から、エネルギーと暮らしとの新しい関係づくりに取り組んでいます。

お客様の生活を見つめ、東急線沿線の暮らしと向き合ってきた東急グループだからできること。

東急でんき&ガスは、「新しい生活体験」を提案しています。よりおトクに、より楽しく、次々と。

私たちは、東急パワーサプライです。



東急でんき&ガス

東急パワーサプライ

川崎未来エナジー
(川崎市地域
エネルギー会社)



出典: 川崎市ホームページ(橋処理センター)

ケーブルテレビ



ITSCOM

人と、街と、世界と、つながる。イッツコム

イッツ・コミュニケーションズ

東急の社会インフラ事業

都市公園

南町田拠点創出プロジェクト（町田市鶴間公園・南町田グランベリーパーク）



出典：鶴間公園ホームページ

等々力緑地再編整備・運営等事業



東急線沿線のまちづくり

- 東急線沿線は東京の西南部17市区にまたがり、首都圏人口の15%が集積するエリアです。
- 民間最大級のまちづくりである多摩田園都市のほか、田園調布、二子玉川など、鉄道を軸・駅を起点とした面でのまちづくりを展開しています。



東急線沿線地域

渋谷区、世田谷区、横浜市等17市区

面積:49,200ha

人口:550万人

外国人含む。首都圏1都3県の15%が居住(2020/1)

東急多摩田園都市

川崎市高津区、宮前区、横浜市青葉区、

緑区、町田市、大和市

面積:5,000ha

人口:63万人

事例① たまプラーザのまちづくり

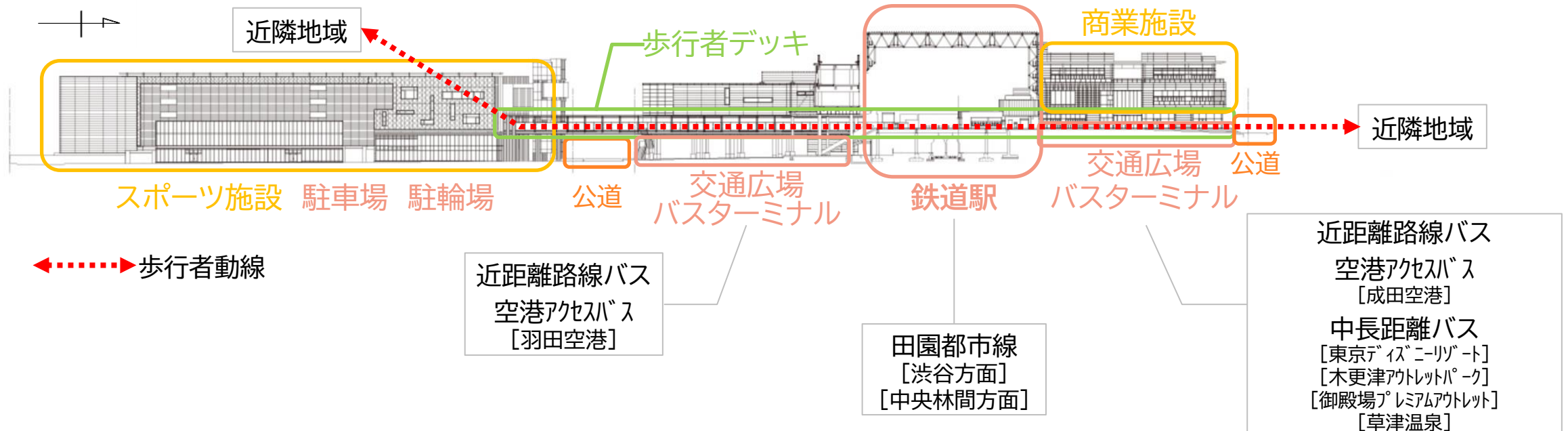
- 多摩田園都市では、TOD(Transit Oriented Development)として、公共交通機関(東急田園都市線、東急バス)の整備を前提に組み立てられた都市開発が行われました。
- たまプラーザ駅は、多摩田園都市のマ스터プランにもとづき、エリアにおける拠点駅として位置づけられ、「交通結節機能」と「生活に必要な都市機能」を集約整備しました。また、まちの広がりに合わせてフィーダー交通となる東急バスのバスネットワークを展開し、面的なエリア形成を行っています。



事例① たまプラーザのまちづくり

ー交通とまちをつなぐ機能ー

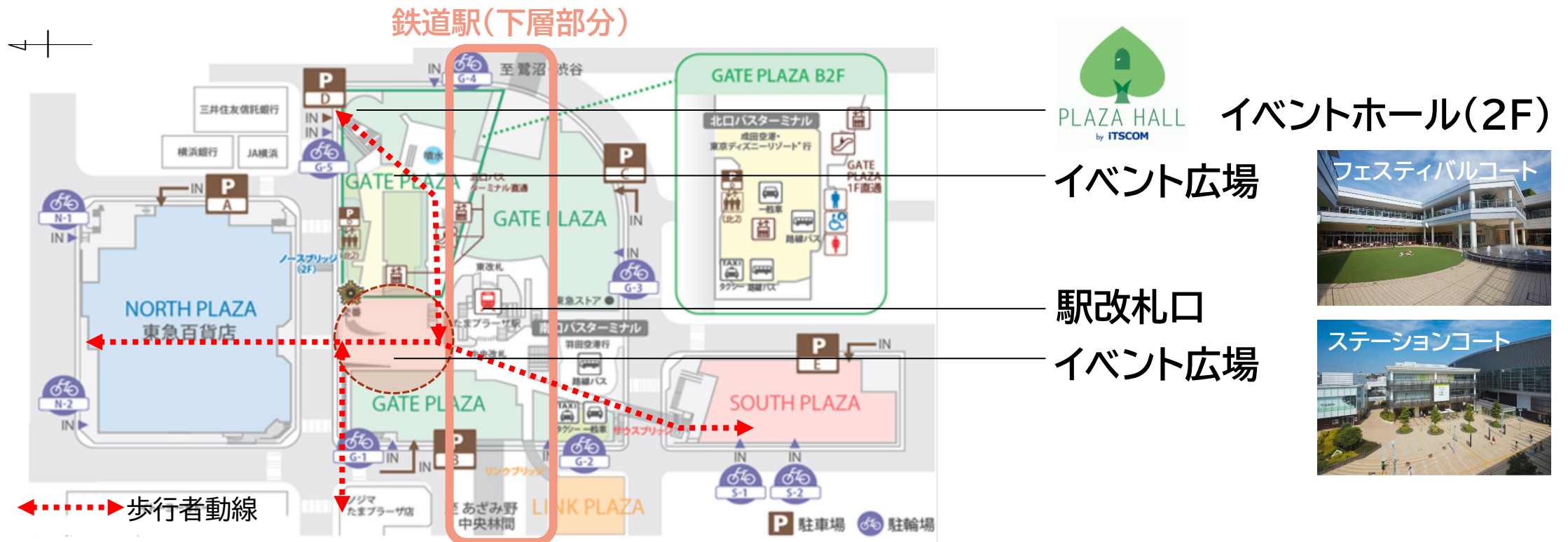
- 駅と商業施設の一体化を行うことにより、駅からまちへの回遊性を確保
- 高低差を人工地盤で覆い、デッキ通路を組み合わせることで全方位の歩行者ネットワークを構築
- 南北交通広場に、各方面の路線バス・タクシー・送迎自家用車など乗換機能を整備
 - 北口交通広場は商業施設地下に配置し、動線を最適化、待合環境を改善
 - バスターミナルからは近距離路線バスに加え、空港アクセスバスや中長距離バスが乗り入れ



事例① たまプラーザのまちづくり

－暮らしの利便性を高める機能－

- 改札口とまちをつなぐエリアにイベントスペースを確保し、賑わいづくり(マルシェ等)や情報発信を実施
- 商業施設内に地域で利用できるイベントホールを設置し、コミュニティ形成を促進
- スーパーやクリニック、保育園、学童保育施設、スポーツ施設、学習塾等、生活を支える・豊かにする多様な機能を誘致し、通勤・通学などの交通機関の利用と日常生活に必要な機能を集約



事例① たまプラーザのまちづくり

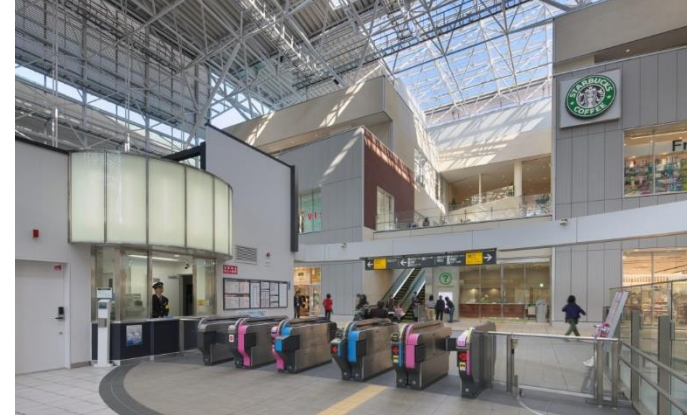
ー駅及び周辺施設のコンセプトー



①北側から見るたまプラーザ駅と商業施設



②駅構内と大屋根



③駅改札と商業施設の連続性

- ・人工地盤の下に2つの交通広場と地下駐車場を設け交通結節機能を内包させ、人工地盤の上には駅を中心とした全方位の歩行者ネットワークを構築。各街区に繋がる道路上空歩行者デッキ通路によって歩車分離を実現している。
- ・人工地盤下部に設けられた北側交通広場及び南側交通広場は、各方面への路線バス・タクシー・送迎の寄り付きなど、交通結節点としての機能を確保しつつ安全な利用を可能とした。
- ・駅を中心に高い回遊性を狙って商業施設群を配置。保育所や学童保育など子育て支援施設や情報発信施設・コミュニティホール・クリニックなど地域の人々の生活の質の向上に寄与する地域拠点としている。

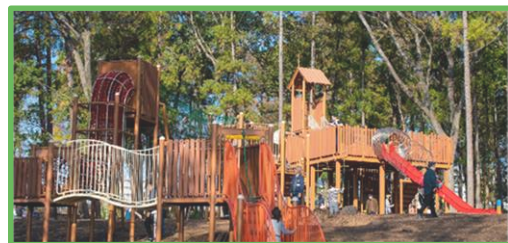


線路上空を活用し駅周辺に都市機能を集約整備することで、鉄道線路を挟んだ南北を一体化させるウォーカブルなまちとするとともに、駅空間に乗換機能や滞留空間を創出しました。

事例② 南町田グランベリーパークのまちづくり

- 「南町田グランベリーパーク駅」は田園都市線の終点から3駅の郊外エリアに位置します。
- 鶴間公園と既存の商業モール(当社運営)を中心とした地区を町田市と当社が共同で駅、都市公園、複合商業施設(アウトレット複合商業モール、スヌーピーミュージアム、医療施設、図書館、子育て支援施設、カルチャー施設)、都市型住宅※などを一体的に再整備・再構築し、2019年のまちびらきを経て、年1,200万人の来場者(2020年度)を記録しています。

※都市型住宅は2024年竣工予定



森のあそびば



鶴間公園



スポーツゾーン



駅前の都市型住宅



全景

事例② 南町田グランベリーパークのまちづくり

ーまちづくりのコンセプトー

まちのぜんぶが“パーク”となる

駅と商業施設、公園、住宅がシームレスに繋がり、まち全体がひとつの「パーク」のようになるような空間づくり

- 駅から商業施設、公園、住宅、周辺地域までつながる歩行者ネットワークの構築
 - ✓ 自由通路整備による駅南北間の分離解消・連絡性向上
 - ✓ 駐車場を中央に配置することによる商業施設内のゆとりある回遊動線の整備と、周辺市街地への歩行者通路の配置
 - ✓ 公園と商業施設の間に位置していた車道の再配置を行い、歩行動線の確保
 - ✓ 公園内には地域の生活動線も兼ねて散策路を整備
- 北口駅前広場を路線バス等の公共交通機能として配置



駅と商業施設の結節点



公園と商業施設の結節点

都市基盤・鉄道駅・商業施設・都市公園・都市型住宅などを一体的に開発し、
多世代にとって魅力的な「新しい暮らしの拠点」としてまちを生まれ変わらせ、あらたな移動需要を創出しました。